

ビザンティン修道院典礼の本質

—夜半課における『詩編』第 119(118)編の意味づけをめぐる—

秋 山 学

序.

旧約聖書『詩編』の読誦は、ユダヤ教徒からキリスト教徒が受け継いだ伝承であるが、両者による意味づけにはいかなる相違が認められるのであろうか。

キリスト教の典礼のうち、古代性をよく留めたまま現代にまで継承されているのがビザンティン典礼である（秋山 2020）。ビザンティン典礼には、大別して修道院典礼と教区典礼とがあり、当然のことながら前者のほうが厳格である。そして最も厳格なレベルで修道院典礼、換言すれば修道院における祈祷の日課が執り行われる場合、一日の始まりを画す未明に「夜半課」と呼ばれる祈祷がおこなわれる。

この「夜半課」には週日・土曜・主日（日曜）と 3 種類のパターンがあり、相互にかなり異なっている。このうち「週日夜半課」は、それだけ世俗（教区も含めて）との乖離性が甚だしいという意味において最も修道院性の濃い祈祷であると言えるが（Ivancsó 1999 : 191）、この「週日夜半課」において、その大部分を占めるのが、旧約聖書の『詩編』第 118 編（ギリシア語訳聖書を用いるため通常このナンバリングで記憶される；ヘブライ語テキストによれば『詩編』第 119 編）全編の読誦である。

本稿では、この『詩編』第 118 編をヘブライ語原典テキストに基づいて読み上げる際（したがって本稿では『詩編』第 119 編を読むということになる）、ビザンティン典礼の整備者として歴史上に記憶される、ギリシア教父大バシレイオス（330-379）の著作を時に参照しつつ、キリスト教ビザンティン典礼の視点からの読誦によって、旧約聖書のテキストの読み方に関していかなる要因と変化が加わり得るのか、を検証してみたいと考える。この際、バシレイオスが抗アレイオス派論争の中で、聖霊論ならびに正統三位一体論の確立に貢献したことを併せて記憶しておきたい。

1. ビザンティン典礼による一日の祈祷サイクルの概要

バシレイオスの著作『修道士大規定』第37項には、現在にまで至るビザンティン修道士たちの祈祷サイクルの原型が明示されている。それに基づくなら (Ivancsó 1999 : 116-118),

- 1) 第1時課
- 2) 第3時課
- 3) 第6時課
- 4) 第9時課
- 5) 晩課
- 6) 終課
- 7) 夜半課
- 8) 朝課

により祈祷の一日が構成される。これ以外に9) 聖体祭儀が加えられて典礼のサイクルが完成することになる。

さて、修道士たちがこれら祈祷のサイクルの中で行っていることは、主として旧約聖書『詩編』全150編の読誦であるといって差し支えない。伝統的なスケジュールによれば、『詩編』全編は上記のうち5) 晩課および8) 朝課の中で読誦され、1週間で全150編が通読される。晩課と朝課は、主・祝日に際しては教区教会の聖堂でも行われるため、これには信徒も参加が可能であるが、週日も含めて毎日この晩課と朝課が行われるのはほぼ修道院に限られる。なお、このように一週間を通じての晩課・朝課で『詩編』全編が通読されるのであるが、これ以外の祈祷として、上掲のように「夜半課」が行われ、そこでも『詩編』の読誦が義務づけられている。そして、週日の夜半課でまず読まれるのが『詩編』第118(119)編である、ということになる。

ところでこの『詩編』読誦に関して、ビザンティン典礼の伝承の中で編み出された独特のグルーピングのシステムがある。それは「カティズマ」と呼ばれるものである。

2. 「カティズマ」をめぐって

「カティズマ」とは元来「着席」といったような意味のギリシア語語彙であるが、これは、典礼のなかでこの『詩編』読誦の間は、参会者が着席してこれ

を行ってよい、とされることから与えられた名称である。この「カティズマ」とは、『詩編』全150編を計20個のグループに分け、土曜の晩課をスタートに、第1カティズマから順に読む、というシステムを意味する。カティズマの内容は順に（以下ヘブライ語テキストの『詩編』番号による；秋山2010a：145-146）、

第1：1～8 第2：9～17 第3：18～24 第4：25～32 第5：33～37
第6：38～46 第7：47～55 第8：56～64 第9：65～70 第10：71～77
第11：78～85 第12：86～91 第13：92～101 第14：102～105
第15：106～109 第16：110～118 第17：119 第18：120～134
第19：135～143 第20：144～150

である。本稿で扱う『詩編』第119編は、上掲のように単独で第17カティズマを構成する。

さて、ビザンティン典礼の晩課・朝課のスケジュールにあつては、この20個の「カティズマ」を、土曜すなわち主日前晩の晩課から読み始める。すなわち土曜夕刻の晩課においては、カティズマ一個分に当たる『詩編』第1編から第8編までを、3分割しつつ交唱のかたちで読み進めてゆく。3分割とは、読誦全体のあいだに2つの中途区切りが設けられるという次第を指す。この区切りに際してそれぞれ唱えられる誦句は「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに」「アレルヤ、アレルヤ、アレルヤ、神よあなたに栄光あれ」×3；「主よ憐れみたまえ」×3；「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに」と定まっている（下記『詩編』第119編も第17カティズマ一個分であるので、詩編の中途2か所にこの誦句が配される。詳しくは下記参照）。

本稿での結論を先取りするようだが、ここには既に三位一体への讃美が歌い上げられていることに注目したい。すなわち、ビザンティン典礼では旧約聖書『詩編』の読誦においても、すでに三位一体論の観点に基づいてこれを行っているのである。

一週間で読まれるカティズマないし『詩編』の内実は、次のようになっていく（数字はカティズマの番号を指す）。晩課で1個カティズマ、朝課で2個カティズマ、というのが基本である。

土晩【1】、日朝【2, 3】、日晩【-】、月朝【4, 5】、月晩【6】、火朝【7, 8】、火晩【9】、水朝【10, 11】、水晩【12】、木朝【13, 14】、木晩【15】、金朝【19, 20】、金晩【18】、土朝【16, 17】。

これを見てまず気づくのは、日曜晩課には、読誦のために『詩編』が割り振

られてはいないこと、また木曜晩課まではカティズマの番号に沿って順に進めるものの、金曜朝課以降は順序が逆転し、土曜朝課を以降の起点とするかのごとき配分となり、順番から言えば、以降土朝⇒金朝⇒金朝の順序で20カティズマ全体の読誦が終えられる、という2点である。

まず第1点目についてであるが、20は7の倍数ではないため、朝課で2個、晩課で1個を読む上掲のようなスケジュールで進むと、どこかで1つだけカティズマを欠く朝課ないし晩課が生起するはずである。一週間の頂点が、キリストの復活を記念する日曜（主日）朝に置かれ、かつ古代の慣習を踏襲する形で一日が前晩の日没から開始されるという考えに基づけば、土曜晩課から一週間が始まるという理念はごく自然である。したがって旧約聖書の『詩編』読誦に関して、一週間のうち1か所だけを減じる必要性から言えば、それが日曜晩課になるという経緯は十分に理解できよう。

次いで第2点目に関してであるが、これは本稿での論題と少しく関わる問題である。本稿冒頭に記したように、『詩編』第119編（第17カティズマ）は週日（月曜日から金曜日まで）の夜半課で読むことになっているため、『詩編』の番号の順で第17カティズマの番になるはずの金曜日には、もし朝課で第17カティズマを読むと夜半課と朝課とで重複してしまう。これに伴って朝課の方のカティズマが移動された、という経緯を推定できよう。かくしてビザンティン典礼にあっては、朝課において『詩編』を読む習慣のほうが、夜半課において『詩編』第119編が読まれるよりも後代に成立した慣習だと推測することができるだろう。したがって『詩編』第119編は、キリスト教史のかなり早い段階から修道院的環境の中で読み続けられていた、と推察できそうである。

3. 「夜半課」の次第

以上、ビザンティン典礼による祈祷伝承のうち、まず晩課・朝課における『詩編』読誦の次第を見た。一方ほぼ修道院に限定された形で行われる「夜半課」は、週日【月～金】と土曜日、主日（それぞれ日付変更直後の未明での曜日を指す）によってその内容を異にするため、これには計3通りの次第がある。

1. まず週日の夜半課にあっては、第17カティズマ（『詩編』第119編）の後、『詩編』121編および134編が読誦されるのが現在の慣例である（Keresztes 1993: 64）。この「夜半課第2部」とも呼びうる部分は、死者のた

めの祈りを基調とする。上の二つの詩編は第18カティズマに含まれ、この死者の追憶を基調とする部分に相応しいかも知れない。もっとも、この「夜半課第2部」はおそらく後代の付加かと思われ、第1部とは性格を異にする。したがって本稿での考察からは外し、第1部についてのみ考察することにする。

この「週日夜半課」第1部の次第は、下記のようにになっている (Ivancsó 2000: 111; 詳しくは秋山 2010a, 2010b を参照)。

- 1) 初めの祝福
- 2) 『詩編』第51(50)編
- 3) 第17カティズマ (『詩編』第119(118)編)
- 4) 使徒信条
- 5) 「聖なる神」から主祷文まで
- 6) トロパール
- 7) 「主よ憐れみたまえ」×40
- 8) 「いついかなる時にも」の祈り
- 9) バシレイオスによる閉じの祈り (秋山 2015: 139-140)。

以降、夜半課第2部に当たる祈禱(上述)が続く(省略)。

2. 次に土曜朝(未明)の夜半課では、『詩編』第65(64)編から第70(69)編までで構成される第9カティズマが読まれるが、これは、例えばこのカティズマの中に含まれる第68(67)編の誦句が、復活徹夜祭において先導句(キー・フレーズ)となる「神よ、起ち上がり給え」(cf. 68:2)以下の部分に採られていることと関連すると思われる。つまりここには、復活の記念を寿ぐ土曜(深夜)あるいはそれに続く主日に先駆け、その寿ぎをいわば先取りして行おうという意識を読み取ることができる。

3. そして主日未明の夜半課では、『詩編』の読誦は影を潜め、通常朝課において一般的な典礼様式として知られる「カーノン」形式が採用されている。

この「カーノン」とは、旧約聖書中の讃歌として知られる6つの箇所【1) 出エジプト15, 1-19 2) 申命32, 1-43 3) サムエル上2, 1-10 4) ハバクク3, 2-19 5) イザヤ26, 9-20 6) ヨナ2, 3-10】に、同じく旧約聖書第二正典からの2箇所【7) ダニエル3, 26-45 8) ダニエル3, 52-88】、および新約聖書福音書中の1讃歌【9) ルカ1, 46-55 + 1, 68-79】を加え、それぞれの聖書箇所を基に編み上げられた讃歌の集成である。ヘブライ語旧約原典からの読誦箇所は、上記第1から第6までのカーノン部に相当する。

4. 『詩編』第119(118)編の概要

さて、週日5日間の夜半課で読唱されるのが『詩編』第119(118)編である。この詩編は、計150編より成る『詩編』のうち最も長大なものであり、ヘブライ語原文に従えば、各8節計22連の各々に字母の頭文字を冠した全176節で構成されている。もっともLXX(ギリシア語訳旧約聖書)にあっても各連の冒頭に字母が置かれ、アルファベット詩であることが明示される。

いまヘブライ語原文テキストに即する限り、この第119編に関しては、まずこの「アルファベット詩」性、つまり各連の行頭がすべて、その当該文字を語頭にもつ語彙に始まる、という形式的側面に注目が集まる。その他、この詩ではキー・ワードである「律法」の同義語、計8つの語彙が繰り返し用いられるという点も指摘される。その8語とは、「律法」*tôrâ*、「言葉」*dābār*、「仰せ」*'imrâ*、「掟」*ḥōq*、「規律」*mišwâ*、「定め」*piqqûd*、「諭し」*'ēdût*、「裁き」*mišpāt*である。これらの語彙がいずれも「あなたの～」という語形に置かれ、「あなた」なる主への呼びかけのうちに、詩人が主に躊躇なく随うことが表明されるのである。

5. 主要名詞8個に関する注記

フランシスコ会『聖書』訳注によれば(フランシスコ会聖書研究所1968:391-393)、いま述べたように、この第119編は各連に、教え【本稿での訳語を以下に付記する;法】*tôrâ*・ことば【言葉】*dābār*・仰せ【仰せ】*'imrâ*・おきて【掟】*ḥōq*・申しつけ【規律】*mišwâ*・定め【定め】*piqqûd*・さとし【諭し】*'ēdût*・示し【裁き】*mišpāt*という、神の「啓示」すなわち「律法」を意味する8つの同義語のうちの一つを必ず含んでいる。このうち6つは『詩編』19(18):8-10に出るもの(教え*tôrâ*、さとし*'ēdût*、定め*piqqûd*、申しつけ*mišwâ*、仰せ*'imrâ*、示し*mišpāt*)と同一だということが指摘されている。

基本となっている8語のうち、6語に関しての『詩編』における用いられ方について、以下に注記しておく。

・教え *tôrâ* 【法】

語根は *yārâ* (ヒフィル態で「示す」; Szabó ²2015:165)。本稿では「法」と訳出する。

・さとし *'ēdût* 【諭し】

語根は *ʿūd* (ヒフィル態で「証す」: Szabó ²2015 : 165). 「証しの板」(出エジプト 31 : 18), 「証しの櫃」(出エジプト 25 : 22) など, 「証し」の意で用いられる. より広い意味においては, 神の業への想起を内実とする掟を意味している (『詩編』 78 : 5 「神は証しをヤコブにもたらし, 掟をイスラエルに置いた. これはわれらの父祖に, 彼らの子孫に教えるよう命じた」が示唆に富む). 本稿では「諭し」とした.

・ 定め *piqqûd* 【定め】

piqqûd の語根は *pāqaḏ* であり, Szabó の優れた『詩編』注解によれば (Szabó ²2015 : 87, 166) *meqlátogat* すなわち「訪ねる」「訪れる」といったニュアンスである. 「訪れる」意図は, 「心に留める」「気に懸ける」が故であり, これはわれわれにも親しいところであるが, 思うに *piqqûd* が「定め」という意味になる背景には, 常に心を留め気に掛けるべき事柄としての「定め」といったニュアンスがあるのであろう. 『詩編』 8 : 5 (「人とは何であるのか, あなたが記憶されるとは, また人の子とは何なのか. あなたが心に留められるとは」) も示唆に富む.

・ 申しつけ *mišwâ* 【規律】

語根は *šawâ* 「命ずる」. Szabó (²2015 : 166) を参照.

・ 仰せ *ʿimrâ* 【仰せ】

『詩編』 119 には計 19 回出る (119 : 11, 38, 41, 50, 58, 67, 76, 82, 103, 116, 123, 133, 140, 148, 154, 158, 162, 170, 172). それ以外には, イザヤ 5 : 24 創世 4 : 23 詩編 12 : 7 イザヤ 28 : 23 29 : 4 32 : 9 申命 32 : 2 詩編 17 : 6 イザヤ 29 : 4 申命 33 : 9 イザヤ 5 : 24 サムエル下 22 : 31 詩編 18 : 31 詩編 105 : 19 詩編 138 : 2 詩編 147 : 15 箴言 30 : 5 に現れる.

新約聖書の現代ヘブライ語訳を参照すると, 『ヨハネ福音書』の冒頭部のヘブル語訳のための語彙としては, ふつう *dābār* が当てられている. ここからヨハネ福音記者の言う「ロゴス」とは *dābār* なのであろう, と考えられてきた. しかしながらヘブライ語とギリシア語の対応関係から考えると, 「ロゴス」の原動詞である「レゲイン」に当たるのはむしろヘブライ語では *ʿamar* なのであって, *dābār* はギリシア語の「ラレイン」が当たるとされる (Szabó ²2015). したがってレゲインの名詞形に当たる「ロゴス」に対応するのは, *ʿamar* の名詞形である *ʿimrâ* だとも考えられる. ここからヨハネ福音記者の言う「ロゴス」とは *dābār* とともに, *ʿimrâ* も併せ考えるべきなのかも知れない.

なお, 後出の第 119 編注解部分では, これら *imrâ* と *dābār* が用いられている

部分について、ギリシア語訳旧約聖書における訳語とともに、個々注記しておいた。また本稿であわせ参照するとしたバシレイオスの著作におけるこの『詩編』の引用部分についても、Bazilの名で注記しておいた（§は『修道士大規定』『修道士小規定』の章番号を、それに続くローマ数字は『大規定』、アラビア数字は『小規定』における当該詩節の引用箇所を表す）。

・示し mišpāt【裁き】

Szabó (2015 : 167) を参照. šāpat「裁く」が語根である。

残りの2語は、「おきて」ḥōq【掟】と「ことば」dābār【言葉】である。

・おきて ḥōq【掟】

語根は ḥāqaq（定める）である。

・ことば dābār【言葉】

語根は dābar（語る）である。

以上、ヘブライ語の基本性質から言えば当然なのであるが、概念語名詞として取り出されている上記8つの語彙についても、語根となっている動詞を個々取り出すことが可能であり、この点は、以下の注記部分に続いて行うキリスト教的読誦での特質の指摘に向けて、着目しておきたい。

6. 『詩編』第119編テキスト翻刻・訳注

以下、『詩編』第119編をヘブライ語原文に即して訳出し、適宜注記を加える。下記のように欧文文字アルファベットに翻字しただけでも、各連が、当該文字に始まる語彙を行頭に配し、この第119編がテクニクに満ちた作品であるという点が明瞭になることであろう。

1 'alef)

1] 'ašrê ʾmîmê-dārek hahōl'kîm b'tōrat 'ādōnāy

幸いなる者たち、それは道を全うし、主の法を歩む者たち。

2] 'ašrê nōšrê 'ēdōtāw b'kol-lēb yidr'sūhū

幸いなる者たち、それは主の証しを遵守し、まったく心でそれを尋ね求める者たち。

・nāšar「守る」意であるが、第119編には頻出する（119 : 2, 22, 33, 34, 56, 69, 100, 115, 129, 145）。

3] 'ap lō'-pā'ālū 'awlâ bidrākāw hālākū

彼らは悪事を働かず、主の道を歩む。

4] 'attā šiwwîṭā piqqudeykā lišmōr m'ōd

あなたはあなたの定めを、墨守するようにと課す。

5] 'aḥālay yikkōnū d'rākāy lišmōr ḥuqqeykā

願わくは、わが道があなたの掟を守る上で揺るがぬものであれかし。

6] 'az lō-'ēbōš b'habbīṭī 'el-kol-mišwōteykā

そしてわたしが、恥じることなくあなたの規律のすべてに専心できるように。

7] 'ōd'kā b'yošer lēbāb b'lom'dī mišp'tē šidqekā

わたしは、あなたの正しき裁きを学ぶに際し、直き心もて感謝をささげる。

8] 'eṭ-ḥuqqeykā 'ešmōr 'al-ta'azḥēnī 'ad-m'ōd

わたしはあなたの掟を守ろう、あなたがわたしをとこしえに見棄てることのないように。

2 bet)

9] bamme(h) y'zakke(h)-nna'ar 'eṭ-'orhō lišmōr kidḥārekā (λόγος)

若者は何をもって自らの道を浄めるのか。あなたの言葉を守ることによってである。

10] b'kol-libbī d'raštīkā 'al-tašgēnī mimmišwōteykā

わたしはまったき心であなたを探し求めよう。あなたの規律から逸れぬようにさせたまえ。

11] b'libbī šāpantī 'imrāteḥā ('imrā:λόγια) l'ma'an lō' 'ehēṭā'-lāk

わたしは心に秘す、あなたの言葉を。あなたに対して罪を犯さぬように。

12] bārūk 'attā 'āqōnāy lamm'dēnī ḥuqqeykā

主よあなたは祝された方、わたしにあなたの掟を教えたまえ。

・これは朝課における「復活讃歌」の基調をなす主題である (秋山 2010a, 2010b)。

13] bišpāṭay sippartī kōl mišp'tē-pīkā

わたしはわが唇で伝える、あなたの口のすべての裁きを。

14] b'derek 'ēd'wōteykā šāstī (119 : 14, 162) k'al kol-hōn

あなたの智の道にあって、わたしは悦ぶ、すべての富に優るものとして。

15] b'piqqudeykā 'ašīhā w'e'abbīṭā(nāḥat) 'or'hōteykā ('ōrah)

わたしはあなたの定めを思い巡らす。そしてあなたの道に目を注ぐ。

16] b^eħuqqōteykā ʿeštaʿāšāʿ (šāʿaʿ; 「喜ぶ」 119 : 16, 47, 70 ; 94: 19) lōʿ ʿeškāh d^ebārekā (dābār: λόγος)

わたしはあなたのために喜び、あなたの言葉を忘れることがない。

3 gimel)

17] g^emōl ʿal-ʿabd^ekā ʿchye(h) w^eʿešm^erā d^ebārekā (dābār: λόγος)

あなたの僕の上に恩恵を授け、生かしたまえ。わたしはあなたの言葉を守ろう。

18] gal-ʿénay w^eʿabbtā niplāʿōt (pālaʿ 驚くべきである) mitōrātekā

わが両の目を開きたまえ、わたしがあなたの法に驚異を観想できるように。

19] gēr ʿānōkī bāʿāreš ʿal-tastēr mimmennī mišwōteykā

わたしは地上における寄留者。あなたの規律をわたしに隠すことなかれ。

20] gār^esā napšī lʿtaʿābā ʿel-mišpāteykā b^ekol-ʿēt

わたしの心は疲れ果てた。あなたの裁きをいかなる時にも求めるが故に。

21] gāʿartā zēdīm ʿārūrīm haššōgīm mimmišwōteykā

あなたは高ぶるものを低くし、あなたの規律に背く者を厭われる。

22] gal mēʿalay ħerpā wābūz kī ʿēdōteykā nāšārʿtī

そしりとさげすみを取り去りたまえ。わたしはあなたの知を守る。

23] gam yāš^ebū šārīm bī niqbārū ʿabd^ekā yāšīah (119 : 15, 23, 27, 48, 78, 148) b^eħuqqeykā

たとえ支配者たちがわたしに悪意を抱こうとも、あなたの僕であるわたしは、あなたの掟を思い巡らす。

24] gam-ʿēdōteykā šaʿāšuʿāy (šaʿāšuʿim 「喜び」 ; 119 : 24, 77, 92, 143, 174) ʿansē ʿāšāṭī (Bazil § 230, 269)

あなたの知はわが喜び。わたしを論す力。

4 dalet)

25] dāb^eqā leʿāpār napšī ħayyēnī (ħāyā ピエル態) kidbārekā (λόγος)

わが魂は死の床に臥す。あなたの言葉に従い、わたしを生かしたまえ。

26] d^erākay sippartī wattaʿānēnī lamm^edēnī ħuqqeykā

わたしはあなたの道を語り、あなたはわたしを聞き届けて下さる。あなたの掟を学ばせたまえ。

・朝課に頻出する。

27] derek-piqquḏeykā hābīnēnī w^e’āšīhā b^enipl^e’ōteykā

あなたの定め^eの道^eを覚^eらせたま^eえ。わたしはあなたの奇^eしき業^eに思^eいをはせ
る。

28] dāl^epā napšī mittūgā qayy^emēnī kiḏbāreḳā (λόγος) (Bazil § 80)

わが魂^eは悲^eしみに打^eちひしがれる。あなたの言^e葉^eの通^eり、わたしを立^eち上^eが
らせたま^eえ。

29] derek-šeḡer hāsēr (sūr のヒフイル態；「遠^eざける」) mimmennī w^etōrāt^ekā
honnēnī

悪^eの道^eをわたくしから遠^eざけたま^eえ。そしてあなたの法^eをもつてわたしを憐^e
れみたま^eえ。

30] derek-’ēmūnā hāhār^etī mišpāteykā šiwwūī

わたしはまこと^eの道^eを選^eび、あなたの裁^eきを貶^eめることがない。

31] dābaqtī b^e’ēḏ^ewōteykā ’ādōnāy ’al-’bīšēnī

主^eよ、わたしはあなたの論^eしから離^eれない。わたしを辱^eめたもうな。

32] derek-mišwōteykā ’ārūš kī tarhīb libbī

あなたの規^e律^eの道^eをわたしは走^eる。あなたはわが心^eを広^eげられた。

5 he)

33] hōrēnī (yārā のヒフイル態；「教^eえる」；102 にも) ’ādōnāy derek huḡeykā w^e
’eṣṣ^erennā ’ēḡeb

主^eよあなたの掟^eの道^eをわたしに教^eえたま^eえ。わたしは最後^eまでそれを宝^e物と
しよう。

34] hābīnēnī w^e’eṣṣ^erā tōrāteḳā w^eešm^erennā b^ekol-lēb

わたしに理^e解^eを授^eけたま^eえ、わたしはあなたの法^eに随^eい、心^eを込^eめてそれを
守^eろう。

35] hadrīkēnī bintīb mišwōteykā kī-bô hāpāš^etī (hāpēš これも「喜^eぶ」；詩編 51 : 8,
18, 21 にも出る)

あなたの規^e律^eの小道^eを歩^eませたま^eえ。わたしはそこに喜^eびを見^e出す。

36] haḡlibbī ’el-’ēḏ^ewōteykā w^e’al ’el-bāša^e

わが心^eをあなたの論^eしに向け^eさせたま^eえ。そして不正^eな益^eには目^eを向け^eさせ
たもうな。

37] ha’ābēr ’ēnay mēr^e’ōt sāw^e’ bidrāḡekā ḡayyēnī

わが両^eの目^eを虚^eしきものを見^eることから逸^eらせたま^eえ。あなたの道^eにわれを

生かさせたまえ。

38] hāqēm l^eabd^ekā 'imrātekā (λόγιον)'āšer l^eyir'ātekā

あなたの言葉をあなたの僕に立てたまえ。あなたへの恐れのために。

39] ha'ābēr herpāṭī 'āšer yāgōr^etī kī mišpāteykā tōḅīm

わたしが恐れるわたしへの嘲りを逸らせたまえ。あなたの裁きは良きもの。

40] hinnē(h) tā'abtī l^epiqudeykā b^ešidqāt^ekā hayyēnī

見よわたしは待ち望む、あなたの定めを。あなたの義においてわたしを生かしたまえ。

6 waw)

41] wībō'unī ḥāsādekā 'ādōnāy t^ešū'āt^ekā k^e'imrātekā (λόγιον)

主よあなたの慈しみをわたしに來たせたまえ、あなたの仰せの通りに、あなたの救いをわたしに來たせたまえ。

42] w^e'e'ēne(h) ḥōr^epī dābār kī-bātaḥtī bidbārekā (λόγος)

わたしを嘲る者に対しわたしが言葉を応えられるよう。わたしはあなたの言葉に信を置く。

43] w^e'al-taššēl (nāšal 「取り去る」) mippī d^eḥar (λόγος)-'ēmet 'ad-m^e'ōd kī l^emišpātekā yihāl^etī

わが口からあなたのまことの言葉を取り去りたもうな。わたしは真にあなたの裁きを待ち望む。

44] w^e'ešm^erā tōrāt^ekā tāmīd l^e'ōlām wā'ed

わたしは守ろう、あなたの法を止むことなく永遠に、とこしえに。

45] w^e'eḥhall^ekā bār^eḥābā kī piqudeykā dārāš^etī

わたしは歩もう、広き場所で。なぜならあなたの規律をわたしは尋ね求めるがゆえに。

46] wa'ādabb^erā b^e'edōteykā neged m^elākīm w^e'lō' 'ēbōš (Bazil § V3)

わたしは語ろう、あなたの論しを、王たちの前で。そしてわたしは恥じることがない。

47] w^e'ešta'āša' (šā'a'; 「喜ぶ」 119 : 16, 47, 70 ; 94 : 19) b^emišwōteykā 'āšer 'āhāb^etī

わたしはあなたの規律を楽しむ、それはわたしが愛するもの。

48] w^e'eššā'-kappay 'el-mišwōteykā 'āšer 'āhāb^etī w^e'āšihā b^eḥuqqeykā

わたしはあなたの規律に対し、おのが両の手を挙げる。それはわたしが愛す

るもの。そしてわたしはあなたの掟について思い巡らす。

7 zayin)

49] zēkōr-dābār (λόγος) l'ē'abdeqā 'al 'āšer yihaltānī (yāhal; 119: 43, 49, 74, 81, 114, 147)

あなたの僕に御言葉を思い起こさせたまえ。それはあなたがわたしに待ち望ませたもの。

50] zō't nehāmāfī b'onyī kī 'imrātēkā (λόγιον) hiyyāfēnī

これこそ、わが悩みにおけるわたしの慰め。なぜならあなたの仰せはわたしを生かすもの。

51] zēdīm hēlīšunī 'aq-m'ōd mittōrātēkā lō' nāfīfī

高ぶる者たちは、限りなくわたしを嘲笑する。私は退くまい、あなたの教えから。

52] zākartī (zākar) mišpāteykā mē'ōlām 'ādōnāy wā'eṭnehām

主よ、わたしは想い起こす、永遠の昔からのあなたの裁きを、そして慰めを受ける。

53] zal'āpā 'āhāzaṭnī mēr'sā'im 'ōz'be tōrāteqā (Bazil §53, 192)

悪しき者たちゆえに、激しい怒りがわたしを捉えてやまない。彼らはあなたの法を見棄てる者たち。

54] z'mirōt hāyū-lī ḥuqqeykā b'bet m'gūrāy

わたしにとって、あなたの掟は讃歌に他ならない。わたしの住まう家において。

55] zākartī (zākar; 119: 52, 55) ḥallaylā šimkā 'ādōnāy wā'ešm'rā tōrāteqā

主よ、夜のうちにわたしはあなたの名を想い起こす、そしてわたしは守る、あなたの法を。

56] zō't hāy'fā-llī kī piqqudeykā nāšār'fī

それはわたしのもの、わたしはあなたの定めを守る。

8 het)

57] ḥelqī 'ādōnāy 'āmartī lišmōr d'ḥāreykā

主よあなたはわが一部。あなたの言葉を守らんがため。

58] ḥillfī pāneykā b'kol-lēb ḥonnēnī k''imrāteqā (λόγιον)

わたしはあなたの御顔を願い求める。心のすべてをもって、あなたの言葉ど

おりに、わたしを憐れみたまえ。

59] *ḥiššabtī d̄rākāy wā'āšībā raglay 'el-'ēdōteykā*

わたしは自らの道を心に留め、そして自らの足を返す、あなたの諭しに向けて。

60] *ḥaštī w'elō' ḥiṭmahmāh'tī lišmōr mišwōteykā*

わたしは急ぎ、ためらうことがない。あなたの規律を守ることに於いて。

61] *ḥeblē r'sā'im 'iww'dunī tōrāt'kā lō' šākāh'tī*

悪しき者たちの縄がわたしを取り巻いても、わたしは忘れない、あなたの法を。

62] *ḥāšōt-laylā 'āqūm l'hōdōt lāk 'al mišp'tē šidqekā (Bazil § XXXVII5)*

夜半にわたしは身を起こし、あなたに感謝する、あなたの義の裁きをめぐって。

・バシレイオスが引用しているように、この箇所こそ、この第119編が「夜半課」において読誦される理由の大きな一つとなっていると思われる。

63] *ḥābēr 'ānī lekol-'āšer y'rē'ūkā ūl'sōm'rē piqqūdeykā*

わたしは、あなたを畏れるすべての者、あなたの定めを守る者たちを友とする。

64] *ḥas'dkā 'ādōnāy māl'ā hā'āreš ḥuqqeykā lamm'dēnī*

主よ、あなたの慈しみに地は満ちている、あなたの掟をわたしに学ばせたまえ。

9 tet)

65] *tōb 'asītā 'im-'abd'kā 'ādōnāy kidbārekā (λόγος)*

主よ、あなたは自らの僕とともに、あなたの言葉にしたがって善きことを為す。

66] *tūb ta'am wāda'at lamm'dēnī kī b'mišwōteykā he'ēmān'tī*

識別、判断、知識をわたくしに教えたまえ、わたしがあなたの規律を信じられるように。

67] *ṭerem 'e'ēne(h) 'ānī šōgēg w'e'attā imrāt'kā (λόγιον) šāmār'tī*

わたしは低くされる前、罪を犯した。だが今や、わたしはあなたの言葉を守っている。

68] *tōb-'attā ūmēṭīb lamm'dēnī huqqeykā*

あなたは良き方、その良さをもって、わたくしにあなたの掟を学ばしめたま

え。

69] tāp^olū ‘ālay šeqer zēdīm ’ānī b^okol-lēb ’ēššōr (nāšar; 「守る」 119 : 2, 22, 33, 34, 56, 69, 100, 115, 129, 145) piqqūdeykā

傲岸な者たちはわたしの上に欺瞞を塗りつける。だがわたしは、あなたの規律を守る。

70] tāpaš kaḥēleb libbām ’ānī tōrāt^ekā šī’āšā^etī (šā’a’; 「喜ぶ」 119 : 16, 47, 70 ; 94 : 19).

彼らの心は牛乳のように弛緩している。だがわたしは、あなたの法を喜びとする。

71] tōb-lī kī-unnētī (‘ānā低くする ; プアル態) l^ema’an ’elmaḍ ḥuqqeykā

わたしにとって、わたしが低くされていることは良い。あなたの掟を学ばんがため。

72] tōb-lī tōraṭ-pīkā mē’alpē zāhāb wākāsep

わたしにとっては、1000の黄金や白銀よりも、あなたの口から出る法のほうが良い。

・ここで「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに」「アレルヤ、アレルヤ、アレルヤ、神よあなたに栄光あれ」×3。「主よ憐れみたまえ」×3。「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに」が挿まれる。

10 yod)

73] yādeykā ‘āsūnī waykōn^enūnī (kūn 「確かである」 ; 119 : 5, 73, 90) ḥābīnēnī w^eelm^edā mišwōteykā

あなたの両の手はわたしを創り、わたしを確かにされた。あなたの規律を解し学ばせんがため。

74] yrē^eeykā yir’ūnī w^eyismāhū kī liḏbār^ekā (λόγος) yihāl^etī

あなたを畏れる者たちがわたしを見て喜ばんがため、わたしはあなたの言葉を待ち望む。

75] yāda^etī ’ādōnāy kī-šedeq mišpāteykā we’ēmūnā ‘innītānī

主よわたしは知る、あなたの裁きが義しいことを。あなたはまことをもって私を苦しめる。

76] y^ehī-nā’ ḥasd^ekā l^enahāmēnī k^e’imrāt^ekā (λόγος) l^e’aḏdekā

どうかあなたの慈しみが、あなたの僕であるわたしの慰めとならんことを、あなたの仰せのごとくに。

77] y^ebō'ūnī raḥāmeykā w^e'ehye(h) kī-tōrātēkā ša'āšu'āy (ša'āšu'im 「喜び」 119 : 24, 77, 92, 143, 174)

あなたの憐れみがわたしのもとに来たらんことを。さすればわたしは生きる。あなたの法はわが喜び。

78] yēbōšū zēdīm kī-šeqer 'iww^etūnī 'ānī 'āšīah b^epiqqūdeykā

高ぶる者たちが恥じ入らんことを。彼らは悪をもってわたしを歪曲するも、わたしはあなたの定めを語る。

79] yāšūbū lī yr^e'eykā w^eyōd^e'ē 'ēdōteykā

あなたを畏れる者たち、あなたの論しを知れる者たちが、わたしの許に立ち戻るように。

・『詩編』第 51 (50) 編にも同趣旨のフレーズが出る (51 : 15)。

80] y^ehī-libbī tāmīm b^eḥuqqeykā l^ema'an lō' 'ēbōš

わが心があなたの掟により、まったきものとならんことを。わたしは恥じ入ることがない。

11 kaf)

81] kāl^etā liššū'ātēkā napšī lidbārēkā (λόγος) yihāl'tī (yāhal 「待ち望む」 ; 119 : 43, 74, 81, 114, 147)

わたしの魂はあなたによる救いに飢え渴き、あなたの言葉を待ち望む。

82] kālū 'ēnay l^e'imrātekā (λόγιον) lē'mōr māṭay t^enahāmēnī

わたしの両の眼は、あなたの仰せのために消え入る。いつ、わたしはあなたを慰めると言ってくれるのか。

83] kī-hāyītī k^enō'd b^eqītōr ḥuqqeykā lō' šākāh^etī

というのもわたしは、濃い煙の中の革袋のよう、あなたの掟をわたしは忘れない。

84] kammā y^emē-'abdekā māṭay ta'āse(h) b^erōd^e'pay mišpāt

あなたの僕の日々はどれほどなのか、わたしを迫害する者たちに対し、あなたはいつ裁きを行われるのか。

85] kārū-lī zēdīm šīhōt 'āšer lō' k^etōrātekā (Bazil § V3, cf. *Szentlélek* 2,42)。

高ぶる者たちは、わたしに対して陥穽を掘った。それはあなたの法に適うものではない。

86] kol-mišwōteykā 'ēmūnā šeqer r^edāpūnī 'ozrēnī

あなたの規律は、すべて真実。人々はわたしを偽りで迫害する。彼らから私

を助けたまえ。

87] kimʿat killûnî bāʾāreṣ waʾānî lōʾ-ʿāzabtî piqqûdeykā

彼らはこの土地でほとんどわたしを滅ぼさんとする。しかしわたしは、あなたの定めを棄てることはしない

88] kʿhasdʿkā ḥayyēnî wʿešmʿrā ʿēdūt pikā

あなたの慈しみにしたが、われを生かしたまえ。わたしはあなたの口の論しを守ろう。

12 lamed)

89] lʿôlām ʾādōnāy dʿbārʿkā (λόγος) niṣṣāb baššāmāyim

主よ、あなたの言葉は永遠に、天において固く立つ。

90] lʿdōr wādōr ʿēmūnātekā (ʿēmūnā) kōnantā ʿereṣ wattaʾāmōd

とこしえに、あなたのまことは固く立てられ、地も固く立つ。

91] lʿmišpāteykā ʿāmʿdū ḥayyôm kî hakkōl ʿāḥādeykā (Bazil, *Szentlélek* 51,49).

今日それらはあなたの裁きのために立っている。万物はあなたの僕なるがゆえに。

92] lûlê tōrāʿkā šaʾāšuʾāy (šaʾāšuʾim 「喜び」 119 : 24, 77, 92, 143, 174) ʾāz ʾāḥadtî ḥʿonyî

もしあなたの法がわが楽しみでないなら、わたしは自らの悩みのうちに滅びたであろう。

93] lʿôlām lōʾ-ʿeškāḥ piqqûdeykā kî bām ḥiyyītānî

永遠に、わたしはあなたの定めを忘れない、それらによりわたしは生かされてきたが故に。

94] lʿkā-ʾānî hōšīʿēnî kî piqqûdeykā dārāšʿtî (尋ね求める ; 3 回)

わたしはあなたのもの、われを救いたまえ。われはあなたの定めを尋ね求めるが故に。

95] lî qiwwû rʿšāʾim lʿabbʿdēnî ʿēdōteykā ʿetbōnan (理解する)

わたしに悪しき者たちは滅びを望む。だがあなたの論しをわたしは理解する。

96] lʿkol tiqlā rāʾitî qeṣ rʿhāḥā mišwātʿkā mʿōd

すべてにおいて完成と終わりがあるのをわたしは見た。あなたの規律は限りなく広大。

13 mem)

97] mā-`āhabtī tōrātekā kol-hayyôm hī` śihātī (śihā 119 : 97, 99 のみ)

わたしはどれほどあなたの法を愛したことが、一日中、それはわたしの学び。

98] mē`ōy`bay t`ḥakk`mēnī miṣwōtekā kī l`ōlām hī`-lī

あなたはあなたの規律により、わが敵よりもわたしを知恵あるものとされた。それは永遠にわたしのもの。

99] mikkol-m`lamm`day hiškaltī kī `ēd`wōteykā śihā (śihā 119 : 97, 99 のみ ; 動詞 śiah は 119: 15, 23, 27, 48, 78, 148) lī

わが教えの師すべてに比して、わたしは理解に優れる。あなたの論しはわたしの学び。

100] mizz`qēnīm `etbōnān kī piqqūdeykā nāšār`tī

わたしは長老たちに比して理解に優れる、わたしはあなたの定めを守るがゆえに。

101] mikkol-`ōraḥ rā` kāli`tī raglāy l`ma`an `ešmōr d`bāreḳā (λόγος)

すべての悪の道から、わたしはわが両の足を止めた。あなたの言葉を守らんがため。

102] mimmišpāteykā lō`-sār`tī kī-`attā hōrētānī

わたしはあなたの裁きから離れることがない、あなたはわたしを教えたがゆえに。

103] ma(h)-nniml`šū l`ḥikkī `imrātekā (λόγος) mid`baš l`pī (Bazil § VI-2, 281).

あなたの掟は、わたしのあごに何と甘美であることか。わたしの口には蜜よりも。

104] mippiqqūdeykā `etbōnān `al-kēn sānē`tī kol-`ōraḥ šāqer (119: 69, 78, 86, 104, 118, 128)

あなたの掟をわたしは理解する、あらゆる悪の道からわたしは離れる。

14 nun)

105] nēr-l`raglī d`bāreḳā w`ōr lintībātī (Bazil § 230)

あなたの言葉はわたしの足の灯、わたしの小道の光。

106] nišba`tī w`āqayyēmā lišmōr (「守る」) mišp`tē šidqekā

わたしは誓い、そして果たす、あなたの義の裁きを守るために。

107] na`ānētī `aḏ-m`ōḏ `ādōnāy ḥayyēnī (「生かす」 8 回) kiḏbāreḳā (λόγος)

わたしは甚だしく低くされている。主よ、あなたの言葉どおりにわたしを生かしたまえ。

108] *niḏbôt pî r'ṣē(h)-nā' 'ādōnāy ūmišpāṭeykā lamm'ḏēnî* (Bazil § 137)

わが口の供え物を、どうか主よ、受け取りたまえ、そしてあなたの裁きを学ばせたまえ。

109] *napsî b'kappî tāmîd w'tōrāt'kā lō' šākāh'tî*

わが魂は常にわが掌にあり、あなたの法を忘れることがない。

110] *nāṭ'nū r'sā'im paḥ lî ūmippiqūḏeykā lō' tā'tî*

悪しき者たちはわたしに対してわなを仕掛けた。しかしわたしはあなたの定めから逸れることがない。

111] *nāhaltî 'ēḏ-wōṭeykā l'ōlām kî-š'šōn* (喜び) *libbî hēmmā*

わたしは永遠にあなたの諭しを嗣業として受け取る。それらはわが心にとっての悦び。

112] *nāṭitî libbî la'āsōt ḥuqqeykā l'ōlām 'ēqeb*

あなたの掟を為すために、わたしはわが心を傾ける。永遠に、そしてとこしえに。

15 samekh)

113] *sē'āpîm sānē'tî w'tōrāt'kā 'āhāb'tî*

ふた心の者たちをわたしは憎み、わたしはあなたの法を愛する。

114] *siṭrî ūmāginnî 'attā liḏbār'kā* (λόγος) *yihāl'tî* (yāhal; 119: 43, 74, 81, 114, 147)

あなたはわが覆いにしてわが盾、わたしはあなたの言葉を待ち望む。

115] *sûrû-mimmennî m'rē'im w'eṣṣ'rá* (119: 2, 22, 33, 34, 56, 69, 100, 115, 129, 145) *mišwōt 'ēlōhāy*

わたしから、悪事を働く者たちを逸らせたまえ。わたしは神の規律を守るであろう。

116] *somkēnî k''imrāt'kā* (λόγιον) *w'eḥye(h) w'al-t'bišēnî mišsibrî*

わたしを支えたまえ、あなたの言葉の通りに。わたしは生きるであろう。そしてわが望みにおいてわたしを辱しめたもうな。

117] *se'ādēnî w'iwwāšē'ā w'eš'ā* (šā'ā) *b'ḥuqqeykā tāmîd*

われを支えたまえ、わたしは救われるであろう。わたしは倦むことなくあなたの掟を見つめる。

118] *sālītā kol-šōgîm mēḥuqqeykā kî-šeqer tarmītām*

あなたは放置した、あなたの掟から迷い出る者たちすべてを。彼らの欺きは悪しきもの。

119] sigîm hišbattā kol-riš'ê-'āreš lākēn 'āhabtī 'ēdōteykā

地の悪人どもすべてを、あなたは金粕の如くに断たれた。わたしはあなたの諭しを愛する。

120] sāmār mippaḥd'kā b'sārī ūmimmišpāteykā yārē'tī

わが肉は、あなたの恐れゆえに逆立つ。そしてあなたの裁きをわたしは恐れる。

16 'ayin)

121] 'āsūtī mišpāt wāšedeq bal-tanniḥēnī l'ōš'qāy

わたしは裁きと義をおこなう。わたしを虐げる者たちにわれを委ねたもうなかれ。

122] 'ārōb 'abḏ'kā l'tōb 'al-ya'ašqunī zēdīm

善のためあなたの僕の保証人となり給え、高ぶる者たちがわたしを虐げることのないように。

123] 'enay kālū lišū'āteḳā ūl'imrat (λόγiov) šidqekā

わが両の眼は慕い求める、あなたの救いと、あなたの義の仰せを。

124] 'āsē(h) 'im-'abḏ'kā k'ḥasdekā w'ḥuqqeykā lamm'dēnī

あなたの慈しみに即してあなたの僕に為したまえ。そしてあなたの掟を学ばせたまえ。

125] 'abḏ'kā-'ānī hāḥīnēnī w'ēd'ā 'ēdōteykā

われはあなたの僕、われに理解させたまえ、そしてあなたの諭しを知らせたまえ。

126] 'ēt la'āsōt la'ādōnāy hēpērū tōrāteḳā

いまこそ主の為されるべき時、彼らはあなたの法を棄てたがゆえに。

127] 'al-kēn 'āhabtī mišwōteykā mizzāhāb ūmippāz

それゆえわたしはあなたの規律を愛する、黄金よりも、純金よりも。

128] 'al-kēn kol-piqquḏē kōl yiššār'tī kol-'ōrah šequer šānē'tī

それゆえあなたの定めのごすべて、小道のごすべてをわたしは悉く正し、悪から離れる。

17 pe)

- 129] p^olā'ōtī 'ēd^owōteykā 'al-kēn n^ošārātam (nāšar) napšī
あなたの論しは驚くべきもの、それゆえわが魂はそれらを守る。
- 130] pētaḥ d^obāreykā (λόγος) yā'īr mēbīn p^otāyīm
あなたの言葉を披くことで光が差し染める。それは無学の者たちを悟らせる。
- 131] pī-pā'artī wā'eš'āpā kī l^omišwōteykā yā'āb^otī
わたしはわが口を開く、そして渴望する。あなたの規律を慕い求めるがゆえに。
・ここで「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに」「アレルヤ、アレルヤ、アレルヤ、神よあなたに栄光あれ」×3。「主よ憐れみたまえ」×3。「栄光は父と子と聖霊に。今もいつも世々とこしえに」が挿まれる。
- 132] p^onē(h)-'ēlay w^ohonnēnī k^omišpāt l^oōhābē š^omekā
あなたの面をわたしに向けたまえ。そしてわたしに憐れみを注ぎたまえ、あなたの名を愛する者たちへの裁きにしたがって。
- 133] p^oāmay hākēn b^oimrātekā (λόγιον) w^oal-tašlet-bī kol-'āwen
わが歩みを確かなものにしたまえ、あなたの仰せにおいて。そしてすべての不義に対し、わたしを治めさせるなかれ。
- 134] p^odēnī mē'ōšeq 'ādām w^oešm^orā (守る) piqqūdeykā
わたしを贖いたまえ、人の虐げから。わたしはあなたの定めを守ろう。
- 135] pāneykā hā'er b^oaḥdeykā w^olamm^odēnī 'et-ḥuqqeykā
御顔をあなたの僕に輝かせたまえ、わたしはあなたの掟を学ばせたまえ。
- 136] palgē-mayim yār^odū 'ēnāy 'al lō'-šām^orū tōrātekā
わたしの両の眼は水の流れを滴らせる。彼らがあなたの法を守らぬがゆえに。
- 18 šade)
- 137] šaddīq 'attā 'ādōnāy w^oyāšār mišpāteykā
主よあなたは義しき方、あなたの裁きは揺らぐことがない。
- 138] šiwwītā šedeq 'ēdōteykā w^oēmūnā m^o'ōd
あなたは課した、あなたの論しの義とまことを、それは計り知れない。
- 139] šimm^otaṭnī qin'ātī kī-šāk^ohū d^obāreykā (λόγος) šārāy (Bazil § 165).
わが熱情がわたしを滅ぼす。わが敵どもがあなたの言葉を忘却したがゆえに。
- 140] š^orūpā 'imrāte^okā (λόγιον) m^o'ōd w^oaḥd^okā 'āhēbāh

あなたの仰せはいとも練り上げられたもの、あなたの僕はそれを愛する。

141] šā'ir 'ānōkī w^enibze(h) piqqudeykā lō' šākāh'tī

わたしは若く、軽んじられる。だがわたしは、あなたの定めを忘れることがなかった。

142] šidqāt'kā šedeq l^eōlām w^etōrāt'kā 'ēmet

あなたの義は永遠に正しく、あなたの法はまこと。

143] šar-ūmāšôq m^ešā'ūnī mišwōteykā ša'āšu'āy (ša'āšu'im 「喜び」；119：24, 77, 92, 143, 174)

苦難と窮乏とがわたしを見出す。あなたの規律はわが楽しみ。

144] šedeq 'ēd^ewōteykā l^eōlām hābīnēnī w^e'ehye(h)

あなたの論は永遠に正しい。わたしに理解させたまえ、するとわたしは生きる。

19 qof)

145] qārā'tī b^ekol-lēb 'ānēnī 'ādōnāy huqqeykā 'eššōrā

わたしは心を尽くしてあなたを呼び求める。主よ、われに答えたまえと。あなたの掟を守らせたまえ。

146] qārā'tīkā hōšī'ēnī w^eešm^erā 'ēdōteykā

わたしはあなたを呼び求める、わたしを救いたまえと。わたしはあなたの論しを守るだろう。

147] qiddamtī bannešep wā'āšawwē'ā liḏbār^eykā (λόγος) y'hāl'tī (yāhal 他に 119: 43, 74, 81, 114).

わたしは夜明けに先んじ、叫び求め、あなたの言葉を待ち望む。

148] qidd^emū 'ēnay 'āsmurōtī lāsīah (sīah 「観想」；他に 119：15, 23, 27, 48, 78) b^e'imrātekā (λογία)

わが両の目は夜警に似てまんじりともせず、あなたの言葉を喜びとする (Bazil § XXXVII-5).

149] qōlī šim'ā k^eḥasdekā 'ādōnāy k^emišpātekā hayyēnī

主よ、あなたの慈しみに従ってわたしの声を聴き、あなたの義に応じてわたしを生かしたまえ。

150] qār^ebū rōd^epē zimmā mittōrāt'kā rāhāqū

企みによって迫害する者たちが近づく、彼らはあなたの法からは遠い。

151] qārōb 'attā 'ādōnāy w^ekol-mišwōteykā 'ēmet

主よあなたは近くにいます。そしてあなたのすべての規律はまこと。

152] qedem yāda'ti mē'ēdōteykā ki l'ōlām y'sadtām

はじめからわたしは、あなたの論しにより知っていた、あなたがそれらの礎を永遠の昔に敷いたということを。

20 resh)

153] r'ē(h)-'onyi w'hall'sēni ki-tōrāt'kā lō' šākāh'ti

わが苦しみに目を注ぎ、わたしを救い出したまえ。あなたの法をわたしは忘れることがなかった。

154] ribā ribi ūg'ālēni l'imrāt'kā (λόγος) hayyēni

わが争いを争いたまえ、そしてわたしを贖いたまえ、あなたの仰せにおいてわたしを生かしたまえ。

155] rāhōq mēr'sā'im y'sū'ā ki-ḥuqqeykā lō' dārāsū

救いは悪しき者たちから遠い。彼らはあなたの掟を尋ね求めぬがゆえに。

156] raḥāmeykā rabbīm 'ādōnāy k'mišpāteykā hayyēni

主よ、あなたの憐れみは計り知れず、あなたの裁きに従ってわたしを生かしたまえ。

157] rabbīm rōd'pay w'sārāy mē'ēd'wōteykā lō' nāṭīti

わたしを迫害する者たちとわたしの敵どもは数多い。だがわたしは、あなたの論しからそれることがなかった。

158] rā'īti ḥōg'dīm wā'eṭqōṭāṭā 'āšer 'imrāt'kā (λόγος) lō' šāmārū (Bazil § 99, 296)

わたしは裏切り者どもを目にし、忌み嫌う。かれらはあなたの仰せを守ることがない。

159] r'ē(h) ki-piqqudeykā 'ahāb'ti 'ādōnāy k'ḥasd'kā hayyēni

主よ、あなたの定めをわたしが愛するのを見そなわしたまえ。あなたの慈しみに従ってわれを生かしたまえ。

160] rō's-d'ḥār'kā (λόγος) 'ēmet ūl'ōlām kol-mišpaṭ šidqekā

あなたの言葉の頭は真実、あなたの義の裁きはすべて永遠。

21 sin)

161] šārīm r'dāpūni ḥinnām ūmidd'ḥār'eykā (λόγος) pāḥaḍ libbī

国々の長たちは、理由もなくわたしを迫害する。だがわたしの心はあなたの言葉を畏れる。

162] šās (歡ぶ) 'anōkī 'al-'imrāteykā (λόγος) k'mōšē' šālāl rāb

あなたの仰せにわたしは悦ぶ。幾多の戦利品を見出した者のごとくに。

163] šeḡer šānē'tī wa'āta'ēbā tōrātēkā 'ahāb'e'tī (Bazil § V, 5, 10, 11,12, 174, 296).

わたしは悪を憎み、忌み嫌う。わたしが愛するのはあなたの法。

164] šeḡa' bayyôm hillaltīkā 'al mišp'e'tē šidqekā

日に7度、わたしはあなたを讃美する。あなたの裁きの義をめぐって。

165] šālôm rāb l'e'ohābē tōrātēkā w'e'ēn-lāmō miḡšōl

あなたの法を愛する者たちに、平和は豊かであり、彼らには躓きがない。

166] šibbartī lišū'ātēkā 'ādōnāy ūmišwōteykā 'āsī'tī

主よわたしはあなたの救いを待ち望み、あなたの規律を実行する。

167] šām'ērā napšī 'ēdōteykā wā'ohābēm m'e'ōd

わが魂はあなたの論しを守り、大いにそれらを愛する。

168] šāmartī piqqūdeykā w'e'ēdōteykā kī kol-d'rākay negdekā

わたしはあなたの定めと論しを守る。わたしの道はすべて、あなたの前にある。

22 taw)

169] tiqraḡ rinnātī l'pāneykā 'ādōnāy kiḡbārēkā hāḡbīnēnī

主よ、わが叫びがあなたの前に届かんことを。あなたの言葉のとおりにわたしが覺らんことを。

170] tāḡō' t'e'hinnātī l'pāneykā k'e'imrātēkā (λόγtov) haḡšīlēnī (<nāḡalのヒファイル態；『詩編』51：16にも出る)

わが願いよ、あなたの面前に赴くがよい、あなたの言葉がわれを救い出してくれるように。

171] tabba'nā š'pātay t'e'hillā kī t'e'lamme'dēnī ḡuḡqeykā

わが唇が讃美を告げ知らせんことを。あなたはわたしに、あなたの掟を学ばせる。

172] ta'an l'e'šōnī 'imrātēkā (λόγtov) kī kol-mišwōteykā ḡeḡeḡ

わが舌があなたの仰せを応えんことを。あなたの規律はすべて正しい。

173] t'e'hi-yādēkā l'e'ozrēnī kī piqqūdeykā bāḡhār'e'tī

わたしを助けんがため、あなたの御手が生きんことを。わたしはあなたの定めを選び取る。

174] tā'abtī lišū'ātēkā 'ādōnāy w'e'tōrātēkā ša'āšu'āy (ša'āšu'im 「喜び」；119：24, 77, 92, 143, 174).

主よ、わたしはあなたの救いを慕い求める。あなたの法はわが喜び。

175] tʰi-napšī ūtʰalʰlekkā ūmišpātekā yaʿāzrunī

わが魂が生き、あなたを讃美せんことを。そしてあなたの裁きがわたしを助けんことを。

176] tāʿitī kʰše(h) ʾōbēd baqqēs ʾabdekā kī mišwōteykā lōʾ šākāhtī.

わたしは迷い出た小羊の如くに滅びゆく。どうかあなたの僕を探し出したまえ。あなたの規律をわたしは忘れぬがゆえに。

7. 注目すべき動詞8個に関する注記

以上で『詩編』全150編中最も長大な第119編の翻刻を、ヘブライ語本文に即してひとまず終えた。この『詩編』第119編に関して、8つのキー・ワード(名詞)が全体の基調を成している、という点についてはすでに紹介した。

これに対し、バシレイオスが原型を整備した人物として記憶されるビザンティン修道院典礼において、たとえばこの『詩編』第118編は、読誦のための使用言語の違いはさておき、どのような意味づけのもとに読誦されるのだろうか、という点が、本稿において提示してあった問題である。

バシレイオスは、この『詩編』第118編に対する注解を、『詩編注解』その他において遺しているわけではない。したがって、彼がこの詩編にいかなる解釈を施したのかという問いに対して、直接的な回答を与えることはできない。けれども、バシレイオスの手になる『修道士大規定』第37章に載る夜半課をめぐるの記載には、第118編の第62節、および第148節からの引用が認められるため、バシレイオス当時から、この詩編が夜半・早朝の祈禱において読唱されていたことが知られる。また『大規定』と並び「修徳書」群のうちに数えられる『修道士小規定』において、『詩編』全150編のうち最も頻度高く引かれるのがこの第118編である(上記翻刻部の注記を参照)。

たとえば『修道士大規定』のうちには、この第118編148節「わが両の眼は夜警の時刻に先立つ。あなたの仰せを観想するために」が引かれている。ここで「観想するために」と訳した部分に関して、ヘブライ語原文はśāhであり、この第119編でこの語彙は頻用されていた(119:15, 23, 27, 48, 78)。バシレイオスは、ここにギリシア語訳文の ἐξομολογεῖσθαι を読んでいたのであるが、このギリシア語語彙についても、おそらくバシレイオスの中ではヘブライ語原文 śāh に見られる「観想性」の伴う形で理解されていたものと推測して誤りは

なかろう。それはバシレイオスが、「観想」(θεωρία)の意義について、最晩年の一時期に記されたとと思われる『書簡』8において次のように述べているためでもある。

「心において淨いものは幸いである。彼らは神を見るであろう(マタイ5:8)。兄弟たちよ、天の王国と聞いて、諸事物の真なる想念(κατανόησις)以外のものを考えるべきではない。この想念こそ、神的な書が「至福」とも呼んでいるものである。というのも天の王国とは、あなたがたの内面にあるのだから(ルカ17:21)。人間の内面に成立するのは、観想(θεωρία)に他ならない。結局「天の王国」とは観想のことであろう。この天の影をいま、われわれはあたかも鏡のうちに見るごとくに目にしているのであり、後になれば、この土質の身体から解放され、不滅性と不死性を身にまとい、この天国の原型(ἀρχέτυπα)を目にすることになる。もっとも、目にすることになると言っても、それはわれわれが、自らの生を廉直に統御し、正しき信仰の先見を得て初めて可能なのであり、それらなくしては、誰一人として、主を目にすることは不可能なのである」(Deferrari 1926:88)。

このような人間の内面における「観想性」は、正統三位一体論をめぐって苦闘したバシレイオスにあって、聖霊が内在する神殿(書簡2,4)たる人間のうちに認められる、無比なる特質として意識されていたに相違ない。このような視点で詩編第119編を読み直すなら、そこには「待ち望む」yāhal(119:43, 49, 74, 81, 114, 147)、あるいは「喜ぶ」(119:16, 47, 70;名詞形で119:24, 77, 92, 143, 174)といった、人間精神の内面における相互交流性(究極的には三位一体なる神の似像性)に根ざす表現に着目することができよう。これは詩編読誦に際し、聖堂内での交唱性を重んじたバシレイオス(書簡第207)に通ずる本詩編の特質として指摘することができるだろう。

このような観点から、本稿では、ビザンティン典礼による新たな地平として、内省・観照を旨とする8つの動詞関連語彙がこの詩編のうちに頻出することを指摘し、これらが詩編の「三位一体的読誦」において大きな役割を果たしていることを指摘したい。

その8つの動詞とは以下のものである。

- 1) 「待ち望む」yāhal(ギリシア語訳ではἐπελπίζειν); 119:49, 74, 81, 114, 147。以上は「言葉を待ち望む」といった表現に見られる用例であるが、「裁きを待ち望む」という例も119:43にある。

「言葉を待ち望む」という表現を、ユダヤ教徒が発する場合とキリスト教修

道士が口にする場合で如何なる相違が生まれるだろうか。後者であれば、これが旧約聖書の用例であるということが同時に想起されるわけであるから、既に修道士自らのうちに内包されているキリスト性に照らしてこの旧約の言葉が理解されるという、一種の相互照射性がそこに成立していると言えるだろう。それは旧約の言葉を通じて、常に自らに内在するキリストを讃美するという往還行為であり、そこに働いているのは聖霊による「交わり」に他ならない。修道士はつねに、その交わりの三位性のうちにあると言えるのではないだろうか。

2) 「守る」 šamar (ギリシア語訳では φυλάσσειν) ; 119 : 4, 5, 8, 9, 17, 34, 55, 57, 60, 63, 67, 88, 101, 134, 146, 158, 167, 168, cf. 148 (同根の女性名詞が用いられている)。

これは通常用いられる一般的な動詞かもしれないが、「あなたの法を守る」と修道士が発言する場合、自らのうちに律法の具現者でもあるキリストそのものが内包されているのであるから、もとより字句に拘泥する律法主義ではなく、自己のうちに隣人・他者を「供応する」といった意味に転化するように思われる。

3) 「喜ぶ」 šā'a' (ギリシア語訳では μελετᾶν) ; 119 : 16, 47, 70. 名詞形 ša'āšu 'im で 119 : 24, 77, 92, 143, 174.

「あなたの教えはわが楽しみ」という表現が20回以上現れることについては既に指摘がなされているが(フランシスコ会1968:393)、これも2)と同様、自らのうちに既に「律法」の体現者・キリストが内在していることを「喜ぶ」、という意味において、現在終末論的な地平が意味されているのではないだろうか。

4) 「記憶する」 zākar (ギリシア語訳では μνησθῆναι) ; 119 : 49, 52, 55.

「律法の記憶」から転じて、修道士の場合には、終末たるキリストの到来を「記念する」・「思い起こす」、つまり「自らのうちに記念する」という意味となり、「聖霊の神殿としての人間」(書簡2)への神の内在性(同)を証しする、という意味に転ずると思われる。

5) 「観想する」 nābat (ギリシア語訳では κατανοεῖν) ; 119 : 6, 15, 18.

これも4)に似て、三位が宿る神殿としての人間の尊厳を「証しする」という意味に転ずる。

6) 「護る」 nāšar (ギリシア語訳では 主として ἐκζητεῖν) ; 119 : 2, 22, 33, 34, 56, 69, 100, 115, 129, 145.

同じく「守る」という意味となる2)にも似て、「供応する」意味に通ずる

であろう。

7) 「観想する」 śāḥ (ギリシア語訳では μελετᾶν) ; 119 : 15, 23, 27, 48, 78, 148. つぶやき【名詞】 śīḥā は 119 : 97, 99 のみであり, śāḥ と同根。

上にも若干引いて解説を施したが, 自らのうちにある三位が交わる, その三位の現在を証する, という意味に止揚されるため, おそらく同訳語となる 5) に近い意味を表す。

8) 「忘れる」 śākāḥ が否定形で計 8 回用いられている (ギリシア語訳 οὐκ ἐπιλανθάνεσθαι) ; 119 : 16, 61, 83, 93, 109, 141, 153, 176。

敵のあり方を批判する用例 (119 : 139) は別として, 自らのあり方についてつねに否定形で用いられることは, 転じて自らのうちに, 忘却することなく「供応し続ける」意味に転じ得る。すると結局, 上掲した 2) 6) と近い意味になることが考えられる。

結.

詩編第 119 (118) 編は, 本稿前半に記したように「律法」をはじめとして「掟」や「定め」あるいは「規律」といった語彙が頻出するだけに, いかにも旧約聖書的な特質を有した詩編として捉えられがちである。そしてバシレイオスがこの詩編を, 修道院の週日夜半課において読誦する基礎的な詩編として採用したということは, そのようなこの詩編のもつ律法性を修道院にも浸透させようとした彼の意図の現れであったと捉えられるかもしれない。しかしながら, バシレイオスはその活動の主たる勢力を注いだ正統三位一体論の確立, あるいは聖霊論の正統的整備という観点から再考するならば, この詩編に含まれている隠れた特質が浮かび上がってくるのではないだろうか。それは, 人間精神の持つ三位一体的構造であり, 「想起こす」「待ち望む」「喜ぶ」といった, 人間がおこなう基礎的な精神活動のうちに認められる「交わり」「交流」の要因である。バシレイオスが基礎を敷き, 以降 1700 年近くにわたって継承されてきたビザンティンの修道活動の基本的な精神は, まさしくこのような, 人間精神の根本的特質, 特にその動的性格に光を当てるものであったと言いうるのではないだろうか。

【参考文献】

- 秋山 学 2010a 「ハンガリーのギリシア・カトリック教会：典礼を中心に」(荻野弘之編『続・神秘の前に立つ人間：キリスト教東方の霊性を拓くⅡ』125-183頁所収), 新世社.
- 秋山 学 2010b 『ハンガリーのギリシア・カトリック教会：伝承と展望』, 創文社.
- 秋山 学 2015 「ビザンティンの修道士教育—聖バジルのテキストをもとに—」『文藝言語研究 言語編』67, 121-142, 筑波大学.
- 秋山 学 2020 「東方のキリスト教」(伊藤・山内・中島・納富責任編集『世界哲学史 4：中世Ⅱ個人の覚醒』180-181頁所収), 筑摩書房(ちくま新書1463).
- ミルトス・ヘブライ文化研究所編 1992 『詩編Ⅲ』.
- フランシスコ会聖書研究所訳注 1968 『聖書 原文校訂による口語訳 詩編』, 中央出版社.
- 桑原直己訳 1992 『修道士大規定』(宮本久雄・上智大学中世思想研究所編訳／監修『中世思想原典集成 2 盛期ギリシア教父』171-280頁所収), 平凡社.
- H. Bardtke (ed.) 1990, *Liber Psalmorum*, Stuttgart.
- F. Brown et al. (edd.) 1906, *Hebrew and English Lexicon of the Old Testament (BDB)*, Oxford.
- R. J. Deferrari (tr.) 1926, *St. Basil: The Letters I* (Loeb Classical Library 190), Cambridge, Massachusetts-London.
- K. Elliger et al. (edd.) ⁴1990, *Biblia Hebraica Stuttgartensia (BHS)*, Stuttgart.
- Ivancsó István 1999, *Görög katolikus liturgia*, Nyíregyháza.
- Ivancsó István 2000, *Görög katolikus szertartástan*, Nyíregyháza.
- Keresztes Szilárd (engedélyezte) 1993, *Dicséjétek az Úr nevét! : Görög katolikus ima-és énekeskönyv*, Nyíregyháza.
- Orosz László (ford.) 1991, Nagy Szent Bazil: *Életszabályok I.*, Nyíregyháza.
- A Rahlfs ²1979, *Septuaginta*, Stuttgart.
- Szabó Mária ²2015, *A Zsoltárok kincsei*. Budapest.
- R. Taft ²1993, *The Liturgy of the Hours in East and West*, Collegeville, Minnesota.